

2014年度 中央大学共同研究費 ー研究報告書ー

研究代表者	所属機関	文学部		2014年度助成額
	氏名	石村 広		1,132 (千円)
	NAME	Hiroshi Ishimura		
研究課題名	和文	漢語諸方言の動詞連続構文研究 ー結果構文を中心にー	研究期間	2012年度 ～2014年度
	英文	A study of serial verb constructions in the Chinese languages : Particular focus on the resultative expressions		

1. 研究組織

	研究代表者及び研究分担者		役割分担	備考
	氏名	所属機関/部局/職		
1	石村 広	中央大学・文学部・教授	広東語・タイ系少数民族語の調査と地理的分布に関する共時的研究	研究代表者
2	遠藤 雅裕	中央大学・法学部・教授	福建・台湾地域の方言調査および文献資料収集	研究分担者
3	千葉 謙悟	中央大学・経済学部・准教授	上海地域の方言調査と歴史文献を用いた通時的研究	研究分担者
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
合計	3 名			

2. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 1000 字程度、英文 100word 程度）

漢語方言およびタイ系のチワン語（壮語）の文法調査とこれまでの研究成果の公表に重点を置いた。石村は、3月15～21日広東省広州市と広西チワン族自治区南寧市を訪れた。広州では、広東語の文法調査に関する打ち合わせを行った。広州方言は広州暨南大学漢語方言センター長の甘于恩教授と賀州学院の鄧玉榮教授、広西粵語（白話）は広西大学文学部の林亦教授に直接調査の協力を依頼し承諾を得た。併せて実地調査も行った。南寧では、広西民族大学のチワン語学者韦樹関教授と意見交換する機会を持ち、さらに同市北部の武鳴県（チワン語の標準音とされる地域）にある広西壮文学校において2名の標準チワン語ネイティブの協力を得て、結果構文に関するインフォーマント調査を行った。調査は、漢語構文と比較して作成した標準チワン語の文例に基づき適格性を判定してもらうという方法をとった。遠藤は、昨年度に続き、台湾新竹県新埔鎮在住の詹智川氏に調査協力者を依頼し、海陸客家語の調査を3回（①2014年8月27日～29日、②台湾台南市（電話による調査）、③2015年3月10日～14日）行った。調査は、標準中国語の文を海陸客家語に翻訳する、あるいは調査者が作成した海陸客家語の文を判定するという方法をとった。海陸客家語の結果構文に関しては、「把」構文と並行する「搵」構文（いわゆる「処置式」）の主語の性質について検討した。Dowty(1991)によると、原型的主語は、意志性をもち、かつ、主語は必ず述語動詞の項(argument)である。だが、北京官話の「把」構文の主語は、意志性がなくてもよく、また述語動詞の主語でなくてもよい。したがって、海陸方言の「搵」構文は「把」構文ほど広い範囲をカバーしていないと考えられる。この他、モダリティ標識「有 ziu⁵³」、受身文および経験相標識「識 jit⁵」についても実地調査を行った。千葉は、官話研究、とりわけ音声面に欧文資料を用いる際の問題点を指摘した。それは、当該資料の記録対象を吟味すべきこと、資料に作者自身による作例が出現しうること、記述に用いられた欧語の正書法とそれが表す音価の歴史的变化を当該資料のローマ字標音にどうあてはめるかということの3点である。また、上述の共時的研究に対して、通時的観点から文献資料紹介と近代漢語の様相に関する学術的提言を行った。

3年間の調査・研究により明らかになったのは、次の3点である。①南方漢語の結果構文には分離型（VOR）と複合型（VRO）があるが、分離型は未然法に特化した非生産的な文法形式である。漢語は、語順の違いによって使役性の強弱を表す仕組みが発達している。②南方漢語の複合型は、北京官話ほど2つの述語の結合度が高くないため、処置式も未発達である。③タイ系チワン語の結果構文は、分離型のみで已然と未然を表す。漢語と異なり、語順は使役性の程度に直接関与していない。

本研究は「統辞法の歴史的变化が南方型言語から北方型言語への統辞法類型の地理的推移となって具現している」と主張する橋本 1978 の分析モデルを実証する目的で始めたが、3年間の調査と考察を通じて、漢語とタイ系言語との関係は地理的連続性よりも異質性の方にこそ注意を向けるべきであることが明らかとなってきた。この点に関しては、今年度採択された科研費・基盤研究(C)を利用して詳細な調査を行い、孤立型言語の新たな分析モデルの提案に繋げていきたいと考えている。

Our project researched the resultative constructions in Cantonese, Hakka and Zhuang language(one of Thai languages). We showed the following three points: 1) The VOR is basically used to describe irrealis situations in the southern Chinese dialects. There is a correlation between word order and transitivity. 2) The disposal construction is not developed fully in these dialects. This is related to the existence of the sentences as shown in 1). 3) Different from Chinese languages, the VOR in Zhuang language is highly 'productive'. Our conclusion is contrary to Hashimoto's famous theory that there is geographical continuum between them.

3. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
石村広，从动结式的使动意义来源问题看现代汉语语法的研究意义，《汉语语法研究的新拓展（七）》，审稿 [有]，上海教育出版社，近期出版
石村広、「使動用法」再考——陳承澤の「活用」説をめぐって——、『中国文化』第 72 号、査読有、中国文化学会、16—27 頁、2014 年 6 月
遠藤雅裕、南方漢語のモダリティ標識「有」について—台湾海陸客家語を中心に—、早稲田大学中国文学会『中国文学研究』第 40 号、査読無、印刷中
遠藤雅裕、論臺灣海陸客語處置式的主語、『台湾語文研究』、台湾語文学会、2014 年 11 月投稿（審査中）
千葉謙悟、韓国における「奇蹟」の語誌、沈国威・内田慶市編『環流する東アジアの近代新語訳語』東京：ユニウス、pp. 76-86. 2014 年 7 月
千葉謙悟、近代学術と漢字翻訳語 —日本と中国における「合衆国」の展開—、藤巻和宏・井田太郎編『近代学問の起源と編成』、東京：勉誠出版、pp. 83-106. 2014 年 11 月
【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
石村広，从动结式的形成角度来看汉语的“补语”问题，语言教学与研究国际学术研讨会暨《语言教学与研究》创刊 35 周年庆典，提要审稿 [有]，北京语言大学，2014 年 11 月 15—16 日
遠藤雅裕，台湾海陸客語處置式主語的特點，IACL-22 & NACCL-26，要旨査読有，米国・メリーランド大学，2014 年 5 月 3 日
遠藤雅裕，論臺灣海陸客語處置式的主語，第十屆台灣語言及其教學國際學術研討會，審稿「有」・台湾国立成功大学，2014 年 10 月 25 日
Chiba, Kengo. “Miraculous” neologisms: Crosslinguistic adoption and diffusion of the term kiseki/qíjì/gijeok [奇蹟] ‘miracle’ in modern East Asia, <i>East Asian Translation Conference</i> , peer-reviewed, Norwich: University of East Anglia, 20 June 2014.
千葉謙悟、欧文資料と中国語研究 —意義・現状・課題—、近世語学会秋期研究集会、要旨査読有、愛知大学東京サテライト、2014 年 12 月 7 日
【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）